

アンサンブルダウンスケール  
リアルタイム予測システムの構築  
—概要編—

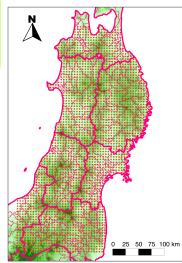


農研機構東北農業研究センター  
農業気象グループ  
大久保さゆり

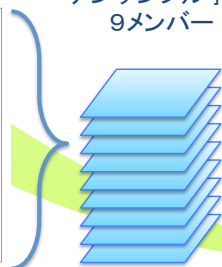
# 背景

- 文科省 温暖化適応プログラム (RECCA) 2010-14
- アンサンブル予測のDS実験×農業モデルへの適用実験
  - 昨年まではハインドキャスト実験 (×BLASTAM) でした
- 外部から好評！
- 考えられる理由：
  - アンサンブルデータで確率表現を実現しているところ
  - 科学技術の社会実装らしいところ

アンサンブル予測計算  
(気象庁+東北大学作成)



アンサンブル予測  
9メンバー

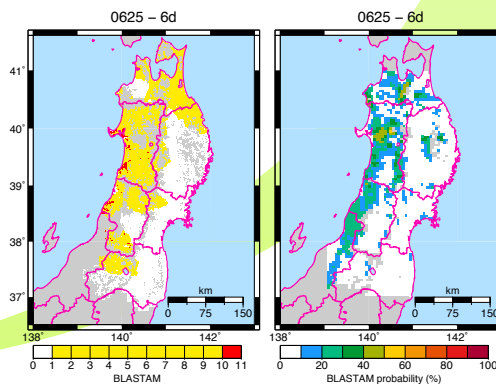


各メンバーで  
葉いもち予察モデル  
(BLASTAM)  
を計算



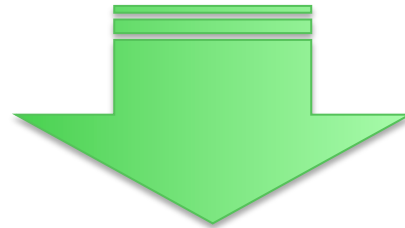
確率予報として  
編集

葉いもち  
発生確率  
○%



# 今年度＝リアルタイム実験

- これまで：ハインドキャスト実験結果での解析

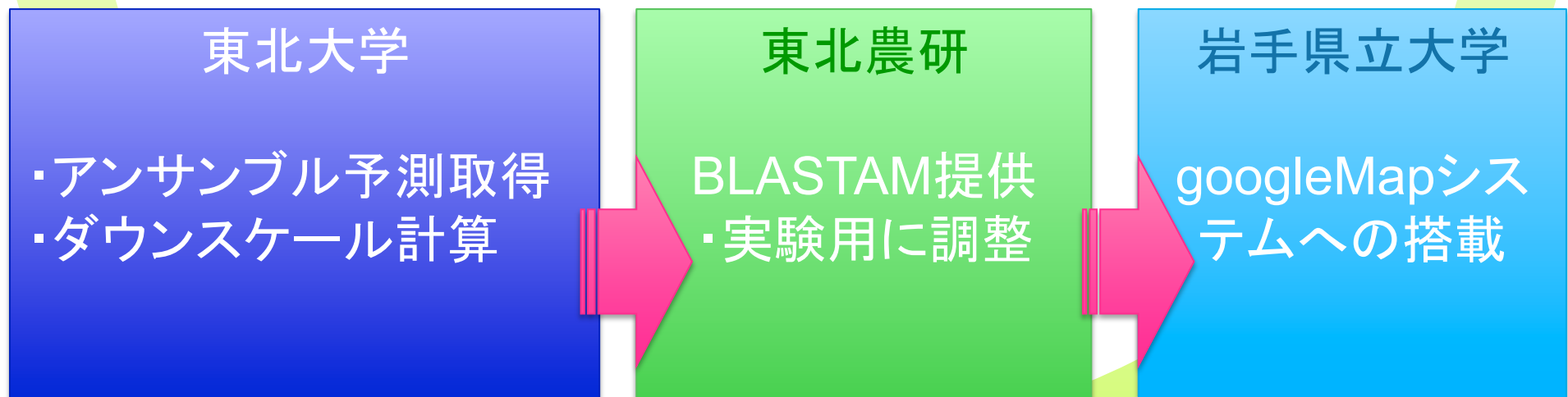


- 2014年度は：**リアルタイム実験**
- ダウンスケール計算と農業モデルへの適用、webシステムへの搭載までを逐次行なう

# リアルタイム実験の概要

- ・ 実験期間: 2014年 6/28-7/14 (1日1回, 17日間)
- ・ 予測期間: 初期値から10日先 (BLASTAMは2-10日)
- ・ 使用データ: 週間RSMC東京責任領域P面予報値 (00UTC)
- ・ メンバー数: 27
- ・ ダウンスケール: NHM, 水平解像度 1.25→10km

## 主な役割分担

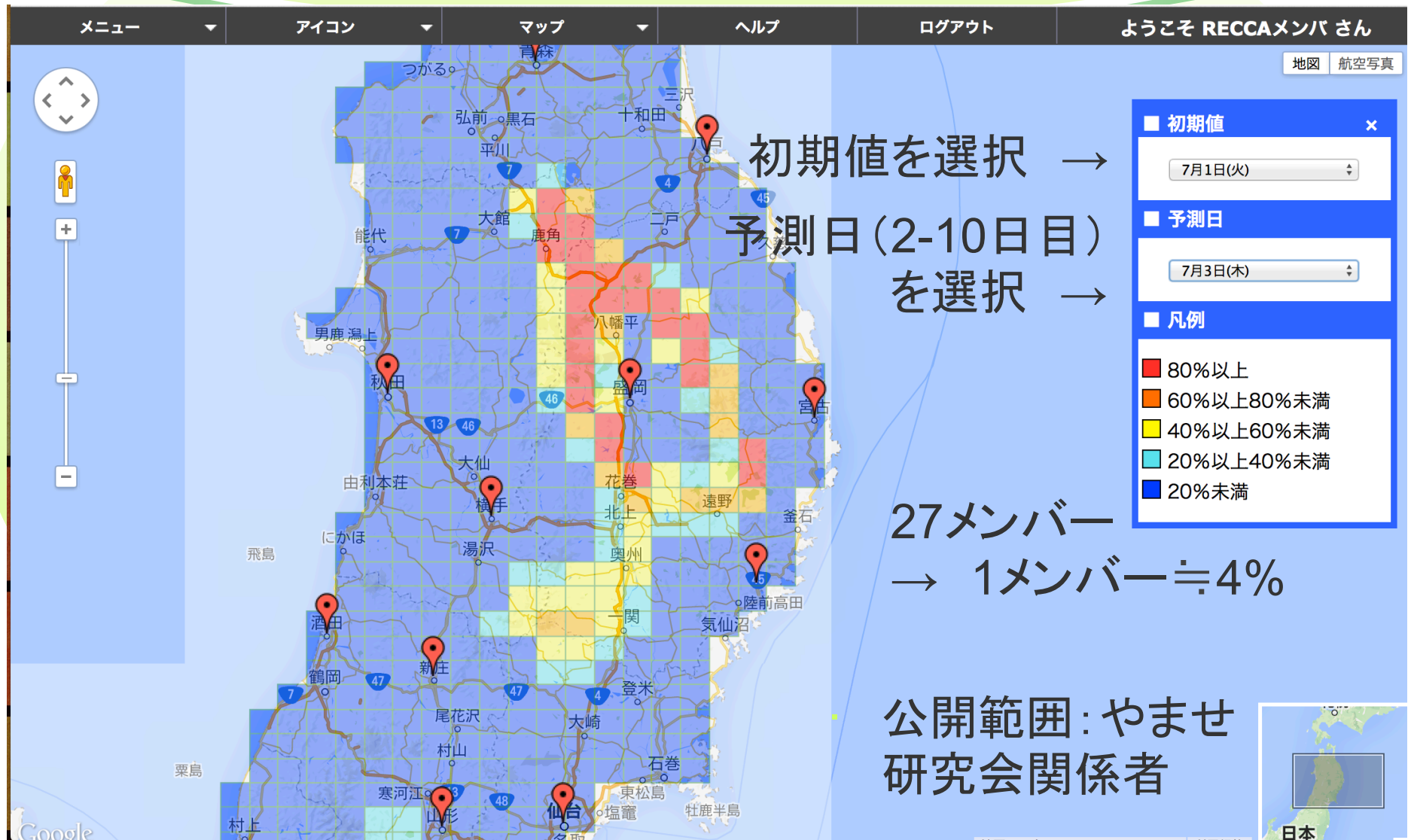


# リアルタイム実験の概要

## データの概要・流れ



# 公開イメージ



# 結果は..

無事に予定していた期間で実験を終えました

(担当者の所感)

- ・ たまにDS計算が抜ける場合がある(27メンバー揃わない)

気象要素／葉いもち計算結果の比較

- ・ 大気側：福井さん(東北大)
- ・ 農業側：大久保(東北農研)

→ つづきます



## 謝辞

計算環境整備、プログラム作成、作図、  
webコンテンツ化,... etc.

ご協力ありがとうございました！